



草津市

平成24年10月

草津川跡地利用基本計画



人と自然 人と人がつながる

ガーデンミュージアムをめざして

どこにもない
魅力まちづくりの舞台開き



人と自然 人と人がつながる ガーデンミュージアムをめざして

私たちは今、どこにもない、草津市にしかない、そして世界に発信したい、魅力一杯のまちづくりの舞台開きを前にしています。

その舞台装置である草津川跡地は、営々とこの地に先人たちが培ってきた彩り豊かな歴史の土台、そこに自然が力を貸して、形づくられています。今に生きる者は、そんなステージをわがまちの価値をしっかりと高める場として活用し、引き継いでいくという使命をもっています。そして未来に生きる次世代が、永々このまちに誇りをもって暮し、豊かさへのチャンスを広げていくための確かなシナリオを残したいものです。

そんな使命を果たすには、草津川が私たちに教えてくれたもの・・・人と自然の力が相まみえることで歴史をつくり、創造できる都市環境・・・という点に着眼し、「歴史をつくる、人と自然の合作」を基本の理念にすることが、出発点になってよいと考えます。

さらに、草津市ならではの、またより普遍性をもつ価値を創り出すには、未来をみつめる現代人として最大限の知恵と力の発揮が求められるでしょう。そんな構えを大切に、長い時間をかけて英知を集めました。そこで一つの明るいビジョンが見えてきたのです。

まちと田園、そして琵琶湖を結ぶかけがえのない宝の空間を、自然と人が、時と共に生き、安全・安心の場ともなる、成長する空間＝ガーデンとして見つめることにしました。

そこは、きっと「時の流れを見つめる場を提供し、心身が癒され、生きる力が得られる場」にできるはずだ、と目標を定めたのです。

人と自然、人と人がつながる「ガーデンミュージアム」がその未来像です。

このビジョンは、ある日突然完成品としてでき上がるのではなく、明日からでも、一步一步、みんながその目標にむかって、共に行動する道のりの延長線上にあると考えます。

その道を共に歩むことが、わがまちに希望を広げていくことでもあるはずです。

ここに提案する未来像と合わせて、そんな楽しみを共にすることを呼びかけます。



草津川跡地利用基本計画の全体構成のあらまし



～草津川跡地利用基本計画 目次～

第1章 計画の背景と目的

1. 1 草津川跡地の意義.....	1
1. 2 計画の視点と目的	2

第2章 計画の基本的な考え方

2. 1 基本理念.....	5
2. 2 計画目標.....	5
2. 3 目標達成に向けての基本的戦略.....	6
2. 4 空間目標と空間像.....	7
2. 5 ガーデンミュージアムの整備の方向性.....	8

第3章 トータルデザイン 全区間の基本的な枠組み

3. 1 トータルデザインとは.....	11
3. 2 トータルデザインの構成	11
3. 3 景観デザイン	13
(1) 景観デザインのコンセプト	13
(2) 景観デザインを具現化するための工夫.....	14
(3) ガーデンミュージアムの構成要素.....	16
3. 4 コミュニティデザイン	17
(1) コミュニティデザインとは	17
(2) コミュニティデザインのコンセプト.....	17
(3) コミュニティデザインの取り組み(草津川跡地でのコミュニティデザインの考え方).....	18
(4) 草津川跡地のエリアマネジメントとは	19
(5) 市民参加による活動に向けて.....	20
3. 5 防災・都市環境デザイン.....	21
(1) 防災・都市環境デザインとは.....	21
(2) 防災・都市環境デザインのコンセプト.....	21
(3) 防災機能の時間的な考え方.....	23

第4章 空間計画

4. 1 空間計画の全体像.....	25
(1) ガーデンミュージアムの考え方	25
(2) 各区分整備の考え方.....	26

(3) 全体配置計画.....	27
4. 2 「自然風を基調とする」植栽計画.....	28
(1) 植栽計画の考え方.....	28
(2) 基調となる植栽樹種.....	29
(3) 各ガーデンにおける植栽例.....	32
4. 3 「集客と自立運営へ」にぎわい空間計画.....	33
(1) にぎわい空間計画の考え方.....	33
(2) にぎわい施設計画.....	33
4. 4 「歴史と景観を演出する」シンボル空間計画.....	39
(1) シンボル空間計画の考え方.....	39
(2) 堤体の特性を活かしたシンボル空間.....	39
(3) 歴史的資源を活かしたシンボル空間.....	40
(4) 交差点を活かしたシンボル空間.....	42
(5) 日常空間のシンボル空間化.....	42
(6) シンボル空間の整備手法.....	42
4. 5 「安全と快適を追求する」動線計画.....	43
(1) 動線計画の考え方.....	43
(2) 道路計画.....	46
(3) 交差点計画.....	49
4. 6 「災害に備え、循環型を目指す」防災・都市環境計画.....	51
(1) 防災機能の考え方.....	51
(2) 草津川跡地の施設整備.....	51
(3) 草津川跡地と周辺の防災施設との連携.....	55
(4) 広域的な災害支援などに役立つ機能.....	56
(5) 都市環境計画の考え方.....	59
4. 7 基盤整備計画.....	63
(1) 造成計画.....	63
(2) 供給処理計画.....	64

第5章 区間別計画

5. 1 区間②基本計画～農と人の共生～.....	65
5. 2 区間③基本計画～森と人の交流～.....	67
5. 3 区間④基本計画～環境と人の共生～.....	70
5. 4 区間⑤基本計画～人と人の交流～.....	72
5. 5 区間⑥基本計画～時と人の出会い～.....	76

第6章 事業の仕組みと事業化計画

6. 1 事業の仕組み.....	79
------------------	----

(1) 安定的・発展的な事業運営	79
6. 2 エリアマネジメント	80
(1) 草津川跡地のエリアマネジメントの仕組み	80
(2) (仮称)エリアマネジメント会議の役割	81
(3) エリアマネジメントによる波及効果	82
(4) 草津川跡地に望まれる「まちづくり会社」の役割	82
6. 3 事業化計画	83
(1) 概算工事費と維持管理費	83
(2) 整備優先度の考え方	84

第7章 今後の取り組み

7. 1 今後の進め方	85
(1) 効果的な段階整備の推進	85
(2) 事業進捗・事業効果の評価・検証	85
(3) 協働の基盤づくり	86
(4) 情報の共有と情報発信	86
7. 2 市民参加の促進	87
(1) 運営、維持管理に向けた仕組みづくり	87
(2) 設計・施工段階における市民参加	87
(3) ガーデンミュージアムの維持管理について	87
7. 3 事業の推進に向けて	88
(1) 国道1号平面化に向けた調整	88
(2) 中心市街地活性化基本計画との連携	89
(3) 関連事業との連携	90
(4) 堤外民地の整理	90
(5) 交通ネットワークの向上	90
(6) 関連施設との連携、協力体制について	90
7. 4 基本設計における検討事項	91
(1) 地形特性を考慮した設計検討の実施	91
(2) 自然力の導入について	92
(3) コスト縮減の検討	93
(4) 堤体の安定性と液状化の検討について	94

参考資料 用語解説	95
-----------------	----